

One Up 通信

日本を食べよう！

お問い合わせ先 パルシステム山梨 長野 活動支援課 055-243-6327

カラー版はこちらから
ご覧いただけます



課題推進チームとは...？

パルシステム山梨 長野の理事会の
年度方針・課題に基づいて、4月か
ら3月までの1年単位で活動するチ
ームです。今年度は組合員5名、理
事2名、職員2名の計9名で『わが
家の食料自給率を上げよう！』を
テーマに活動をしています。

日本の食料自給率は決して高くなく、今後の農業従事者の減少
や、万が一海外から食料を輸入できなくなった場合、危機的な
状況になる可能性もあります。そんな中「私たち一人一人がで
きることは何だろう？」そんなことをみんなで考えていく機会
を作っていきたいと考えています。



ある日の メンバーの食卓の食料自給率

やってみよう！自給率計算を使ってメンバーが食料自給率を計算してみました。
自給率が高いお米をベースにした献立は自給率が高く、自給率の低い小麦を使った料理
では自給率がぐっと下がってしまいました。ご家庭の食事でどんなものが自給率が高く
なるか計算してみてください！



くざるうどん&お漬物

カロリーベース 19%
生産額ベース 86%



<和食>

ごはん
鮭ときこの塩麴バター焼き
油揚げと小松菜の煮びたし
根菜の味噌汁
漬物

カロリーベース 92%
生産額ベース 100%



食料自給率について



食料自給率とは、食料の国内消費のうちどれだけ国内生産して
いるか割合で示したものです。食料自給率は、生きていくため
に必要なエネルギー量に換算する「カロリーベース」と経済的
な価値として金額に換算する「生産額ベース」の2種類で算出さ
れています。令和4年度の国内自給率はカロリーベースで
38%、生産額ベースで63%です。なぜこの数値が目されるか
と言うと、食料は生活に不可欠であり、日本は輸入への依存が
高く、また輸入に対して不確実性が高いからです。異常気象や
世界情勢などで今までと同じように輸入し続けられない事も考
えられるため、自給率の向上を図ることはとても重要です。
普段口にしているものはどこで育ったものか気にしています
か？日本で自給率が高いのはお米でほぼ100%に近く、反対に
小麦や大豆は良く口にしますが多くを輸入しています。
また、肉類も国産が多いように思いますが、飼料の多くを輸入
に頼っているため厳密に計算すると自給率はカロリーベースで
牛肉10%、豚肉6%、鶏肉8%とかなり低いことが分かります。
食料自給率を上げるためには、国内の生産を増やすだけでなく、
私たちが積極的に国産のものを選んでいくことも大切になり
ます。

では、皆さんがうちで作る料理の自給率がどのくらいか考
えたことがありますか？今日の献立の自給率を計算できる面白
いサイトをご紹介します。まずは食卓から自給率を知って、意
識を変えてみませんか。

参照：農林水産省Webマガジンaff 2023年2月号

食料自給率を知る

やってみよう！
自給率計算



食から日本を考える。
NIPPON FOOD SHIFT



講師に
山梨県農政部
をお招きして

学習会をおこないました ～やまなし農業の現状と取り組み～

山梨県は多くを森林で囲まれ、総面積に対する森林の割合は77.5%(4,465km²)、対して農地の面積は5.7%と非常に少ない印象を受けます。農業の中心は皆さんご存知の通り「果樹栽培」であり、ぶどう・もも・すももの収穫量は全国1位を誇ります。水田も身近に見かけますが、米の生産量としては25,500tで全国順位は43位、全国割合としては0.4%と極わずかです。(令和4年統計。)この他にも県内主要農産物の生産量と全国順位の一覧を示していただき、これらの県内産食料を家庭内でどれだけ消費しているか、地産地消を意識するきっかけとなりました。

山梨県の農業は、変化に富んだ自然条件を活かしながら、農地の形状や土壌に対応した適地適作の農業が営まれており、各地域で特色ある産地を形成しています。

果樹…中北・峡東地域 畜産…中北・富士東部地域 野菜・大豆…中北・峡南地域 米・麦…中北地域

農業生産額は平成28年頃から現在において増加傾向、特に果実は輸出額も右肩上がりです。令和4年に20億円を突破しました。『おいしい未来へ やまなし』をキャッチフレーズにデジタルとリアルを融合したブランド化を推進して、効果的なプロモーションを展開しています。

反して、農業の担い手は右肩下がりです。推移しており、基幹的農業従事者は約730人/年減少、かつ65歳以上の割合が74%(令和2年統計)と高齢化が進んでいる状況です。そこで山梨県では、「やまなし農業基本計画」として、高品質化と高付加価値化を推進する様々な施策を行っているそうです。消費者目線で関心のあった内容を紹介します。

●高品質・安定生産による競争力の強化

AI、IoT技術を活用して省力化・高品質化・生産性向上の取り組みを積極的に行っています。自動走行田植機や農業散布用ドローン、ぶどうの自動摘粒作業ロボットなどは「スマート農業」としてニュース等でも取り上げられています。また、ハウス内の温度や湿度を高度に制御して、ぶどうやきゅうりの面積あたりの収量を飛躍的に向上させ、かつ高品質品を安定して生産するためのデータを収集・解析する「データ農業」にも積極的に取り組んでいます。

●高付加価値化に向けた取り組み

山梨県の研究者が長い歳月をかけて育成した山梨県オリジナル品種が開発され、「やまなし」ブランドとして生産が拡大されています。「サンシャインレッド」「甲斐キング」(ぶどう)、「夢桃香」「夢みずき」(もも)は果物好きの方は耳にしたことがあるのではないのでしょうか。また、「4パーミル・イニシアチブ」や「アニマルウェルフェア」の取り組みを山梨県認証制度として創設し、全国に先駆けてブランド構築をしています。

●新規就農者の確保・定着

就農の準備段階から就農後の定着・経営発展までの切れ目ない手厚い支援を実施するとともに、多様な担い手の育成として、セミナー開催や女性リーダーの育成に向けた研修会、農家と福祉施設が連携して農作業に取り組む「農福連携」の推進を図っています。

県内産食料自給率向上のための施策は特に行っていないとのことでしたが、「やまなし」ブランドを中心に農業の重要性や将来性、地域経済の活性化について学ぶことができました。

内部学習をうけて

山梨県の農業の現状が良く分かり、自給率を上げるためにまだまだ変えて行けることがあるのではないかと感じました。

後継者不足と新しく農業を始めたい方たちの農地取得も問題の一つですが、郊外にある耕作放棄地や空き地などが活用できるようマッチングがスムーズにできるようになると良いと思います。

また給食の材料として地元の野菜などを積極的に使う事で農家も販路を確保でき子供達はその農園で農業体験をするとかいろいろな取り組みが出来るのではないかと思います。

その体験により食べ物を無駄にしなくなったりするのではないのでしょうか。また流通に対しても勉強してもらえないのではないかと思います。まずは知ってもらうことが大切だと感じました。

予告

調理を通じて
自給率を考える
イベント企画中！

詳細は後日配布のチラシを
ご覧ください